

[トップ](#) > 記事詳細

● 乳児の重症頻拍根治 大阪で国内初

(2010年12月18日) 【中日新聞】 【夕刊】 【その他】

 [この記事印刷する](#)
 おすすめ 0

 ツイート

 G+ 0

異常心筋、焼いて死滅

心拍数が異常に多い重症頻拍（先天性接合部頻拍）の生後6カ月の乳児の体内にカテーテル（細い管）を入れ、心臓の異常な心筋を焼いて死滅させ、根本的に治療することに大阪市立総合医療センターが成功し、18日発表した。

センターによると、先天性接合部頻拍の乳児でこの治療が成功したのは国内初で、世界的にも少ない。脈に異常が出る不整脈治療の幅が広がりそうだ。

乳児は心臓が小さく、使えるカテーテルが少ないなどこれまで実施が難しかったが、今回は容体が安定していたことなどが成功の要因という。

治療を受けたのは長野県駒ヶ根市の塩沢茉莉ちゃん（3）で、18日退院。茉莉ちゃんと一緒に同日記者会見した母親の綾乃さん（39）は「普通の生活をさせたかった。夢のよう」と目を赤くした。

重症頻拍は心臓を拍動させるのに必要な刺激が正常に伝わらず、心拍数が異常に多くなる不整脈の一種。薬剤でコントロールするのが難しく、心不全で死亡することもある。

茉莉ちゃんは妊娠後期に不整脈と診断され、母体を経由して頻拍を抑える薬物治療を受けた。6月の誕生後、先天性接合部頻拍と診断され抗不整脈薬を投与されていたが治らず、血圧低下や心機能の悪化も起き、今年3日に長野県内の病院から同センターにヘリコプターで搬送された。



記者会見で笑顔を見せる塩沢茉莉ちゃん（3歳）と母親の綾乃さん（39歳）。18日午前、大阪市都島区の大阪市立総合医療センターで撮影された。



6日と10日に太ももの付け根から静脈にカテーテルを挿入し、心室と心房の間にある異常な心筋を、カテーテルの先から流した高周波電流で焼く「経皮的カテーテル心筋焼灼（しょうしゃく）術」を受けた。その後、再発や合併症はない。検査のため通院は必要だが、運動を含め通常の生活が期待できる。

同センター小児不整脈科の中村好秀部長によると、先天性接合部頻拍は非常にまれな疾患で、国内では多くても年間数例程度とみられるという。

「この子が1番頑張った」 母に抱かれにっこり

退院した長野県駒ヶ根市の塩沢茉莉ちゃんは18日、両親と一緒に大阪市立総合医療センターで記者会見し、母親の膝の上でカメラの音に驚いた様子を見せた後、にっこり笑った。

母親の綾乃さんは手術後、茉莉ちゃんに「お利口さんですね」と声をかけたという。「検査や点滴ばかりの毎日だった。この子が1番頑張った」

妊娠中の5月に不整脈の診断を受けたが、おなかの茉莉ちゃんは病気とは思えないほど元気に動き回っていた。ところが生まれた後、ショック状態になったことも。父親の真洋さん（35）は処置を受ける娘を見て「これからが大変だ」と思ったという。センター小児不整脈科の中村好秀部長は「こういう治療法があることを多くの人に知ってもらい、広まってほしい」と話した。

重症不整脈 乳児の治療成功

大阪の病院、国内初

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20101218-00000008-maip-soci>

毎日新聞 12月18日(土)11時38分配信



先天性接合部頻拍の完治に成功した塩沢茉莉ちゃんを抱きしめ、喜びを語る母綾乃さん＝大阪市都島区で2010年12月18日午前10時37分、幾島健太郎撮影

生まれつきの不整脈の一種で、心拍数が異常に多くなる重症の「先天性接合部頻拍」だった生後6カ月の女兒を、カテーテル(細い管)の先から出る高周波で心臓の異常な心筋を焼いて治療することに、大阪市立総合医療センター(大阪市都島区)が成功した。女兒は18日、退院した。実施した中村好秀・小児不整脈科部長によると、生まれつきの乳児の重症不整脈をこの方法で完治したのは国内初という。

この方法は、カテーテル・アブレーション＝焼灼(しょうしゃく)術＝と呼ばれる。大人では広く普及しているが、小児で実施する医療機関は数施設に限られる。中村部長のグループはこの治療を小児に数多く手がけ、これまで1000例以上実施。5歳児の治療例もあった。

治療を受けたのは長野県駒ヶ根市の塩沢茉莉(まり)ちゃん。退院にあたり父真洋(まさひろ)さん(35)と母綾乃さん(39)が中村部長とともに院内で会見した。

中村医師や両親によると、茉莉ちゃんは生まれる前から発症。心室・心房がばらばらに動き、心拍数が1分間に230回にもなっていたという。茉莉ちゃんを妊娠中だった綾乃さんは県内の病院に入院。だが、最初は重症とは診断されず、綾乃さんは「よく動いて成長もしていた。全然病気だと受け止められなかった」という。

しかし6月10日に2680グラムで生まれた直後、茉莉ちゃんは薬物投与によって心臓が血液を体へ送れなくなり、呼吸が止まるショック症状が出た。心室と心房の境目に異常がある重症の先天性接合部頻拍と診断され、綾乃さんは「すごくかわいそうだった」と振り返る。さらに治療を続けたが、症状を抑えることができなくなり、今年3日、ヘリで同センターに搬送。2度の治療を受けた結果、症状が治まった。

茉莉ちゃんは会見中、綾乃さんに抱きついて甘えたり、時折「あーん」と声を出したりして元気な姿を見せた。真洋さんは「よく頑張ったね」と声をかけ、綾乃さんは「(妊娠中も含め)7カ月間も闘ってきたので、これからは普通の生活をさせてあげたい」と笑顔を見せた。【野田武】

乳児の心拍数異常増加、国内で治療初成功 大阪の医療センター

2010/12/18 11:45

小 中 大 保存 印刷 リプリント 共有

心拍数が異常に多い重症頻拍（先天性接合部頻拍）の生後6カ月の乳児の体内にカテーテル（細い管）を入れ、心臓の異常な心筋を焼いて死滅させ、根本的に治療することに大阪市立総合医療センターが成功し、18日発表した。

センターによると、乳児でこの治療が成功したのは国内初で、世界的にも少ない。乳児は心臓が小さく、使えるカテーテルが少ないなどこれまで実施が難しかったが、脈に異常が出る不整脈治療の幅が広がりそうだ。

治療を受けたのは長野県駒ヶ根市の塩沢茉莉ちゃん、18日退院した。

同日記者会見した母親の綾乃さん（39）は「普通の生活をさせてあげたかった。夢のよう」と目を赤くした。

重症頻拍は心臓を拍動させるのに必要な刺激が正常に伝わらず、心拍数が異常に多くなる不整脈の一種。薬剤でコントロールするのが難しく、心不全で死亡することもある。

茉莉ちゃんは妊娠後期に重症頻拍と診断され、母体を經由して頻拍を抑える薬物治療を受けた。6月の誕生後も抗不整脈薬を投与されていたが治らず、血圧低下や心機能の悪化も起き、今月3日に長野県内の病院から同センターにヘリコプターで搬送された。

6日と10日に太ももの付け根から静脈にカテーテルを挿入し、心室と心房の間にある異常な心筋を、カテーテルの先から流した高周波電流で焼く「経皮的カテーテル心筋焼灼術」を受けた。その後、再発や合併症はない。（共同）